

クローバー通信

No. 2

ボランティア募集のご案内

ハガキの宛名書きのボランティアを募集いたしております。期間は6月15日(木)から、時間は午前10時からです。直接事務所においでいただくか、お電話にて(0193-62-5954) お問い合わせ願います。

ホームページ開設のお知らせ

熊坂伸子後援会のホームページがオープンいたしました。アドレスは <http://nobukokumasaka.jp> です。ホームページからの後援会入会も可能です。どうぞよろしくお願いたします。

熊坂伸子インタビュー その②

—どんな子供だったのですか

熊坂 引っ込み思案で、おとなしくて目立たなかったです。

—勉強するのが好きなようですね

熊坂 運動が得意な訳でも、芸術的なセンスがある訳でもなく、本を読んだり人の話を聞いたりするのが好きなので、調査や研究は向いていたかもしれません。

—どんな勉強をされたのですか

熊坂 弘前大学では、植物の勉強をしました。慶応では文学部人間関係学科で心理学を学びました。慶応の時は下の子がまだ小学生でしたから通信教育です。通信教育は入るのは簡単でも卒業するのが難しく、通学生より勉強したかもしれません。これをやり遂げたことで、少し自信がもてました。

—大学院にも行ったのですね

熊坂 夫が宮古市長になった頃、宮古市の財政がとてもしんどかったのです。自治体の財政再建に関する講演を宮古で行った、東北大学の大滝教授に教えて頂きたいと思い、社会人で東北大学大学院経済学研究科に入学しました。

—博士過程での研究がきっかけで滝沢村(現滝沢市)の助役になられたのですね

熊坂 全国の行革先進自治体を訪問する中で、滝沢村の柳村純一村長(当時)にも何度かお目にかかってインタビューさせて頂きました。当時、総務省から出向されておられた助役が国に戻られたので、私に声をかけて下さったのです。

—驚かれたでしょうね

(裏面へ続きます)

熊坂 はい。まだ大学院の学生でしたし、宮古から通勤するのは難しいので、ずいぶん悩みました。でも、夫や教授が背中を押してくれて決断できました。周囲の方々の協力のお陰で何とか2年間務めることができました。

—どんな仕事をされたのですか

熊坂 村長からは主に二つのことを指示されました。一つは新しい総合計画を住民参加で作りに上げること。もう一つは、役場の意識改革を進めて、迅速な意思決定のできるフラットな組織を創ることでした。

総合計画は、高校生グループ、女性グループ等、様々なグループインタビューから始めて、どんな地域づくりをしたいのか住民の声を集めることから始めました。聞く側にも公募の住民が加わる等、住民参加を徹底しました。時間はかかりましたが、一緒に作業をする中で住民と役場職員の信頼関係が出来ていったと思います。

組織のフラット化では、毎朝、始業前に私と部長級職員とのミーティングを行ったりしながら、部長級職員が全庁の課題を常に把握できるようにして、役場の経営陣の一員としての自覚を持って貰うようにしました。

—その次は教育委員会教育長ですね

熊坂 はい、1年後に、普代村の深渡宏村長(当時)から声をかけて頂きました。教育行政は初めてでしたが、マネジメントの基本は同じだと思いお引き受けしました。

—マネジメントの基本とはどういうことですか

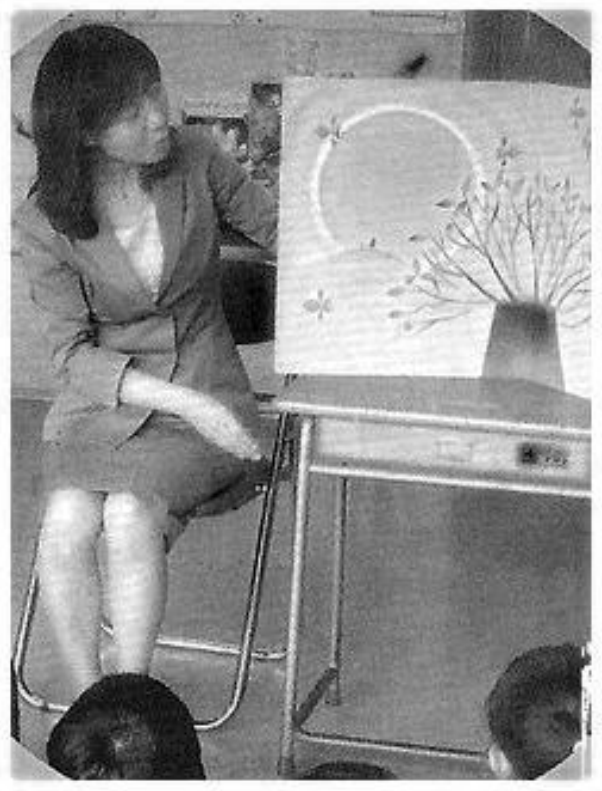
熊坂 助役の時は、どのような地域にしたいのか、地域住民の意見や希望をよく聞いて、目指す姿を明確にし、役場と住民が協力して実現を目指しました。

教育の場でもそれは同じ。学校や地域や子どもたちがどんな教育を望み、どんな子どもたちに育てほしいと考えているのかを、よく聞いて、目指す学校と地域の

すがたを描き、みんなでそれを目指せばいいのだと思いました。

解からないことは住民に聞く、現場に足を運ぶ、というのが私の考えるマネジメントの基本です。学校統合や小中一貫教育もこの考えですすめました。

**若者、女性、社会的に弱い立場の方々など
多様な人々の声を反映させた地域づくりを
目指します。**



発行：熊坂伸子後援会

代表 平井昭吉

〒027-0075 宮古市和見町 10-22

TEL 0193-62-5954 FAX 0193-63-0822